

都道府県名

奈良県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	御所市立葛小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9	15
児童数	24	14	30	26	21	29	5	149	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上を目指した学習指導の創造
～国語科学習を核とした基礎学力の定着を図る取組を通して～

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

全学年・国語科

本校においては、言語への関心や理解、言語活動の適正化などが教育課題となっているため。
国語科の学力向上を図ることで、すべての学習においても学力を向上させることができると考えているため。

(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力」を付けるための指導の在り方の研究 ～個に応じた学習指導の工夫～</p> <p>仮説 個に応じた指導に徹し、「分かる授業」を展開することで、基礎学力の定着とその向上が図れる。</p> <p>研究内容・方法 校内学習研究会（国語科・年間6回） 三部会別研修（学習構成部・学習環境部・教育課程編成部） 先進地研修（京都ノートルダム学院小学校）</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を付けるための評価の在り方の研究 ～目標と指導・学習と評価の一体化を目指したカリキュラム編成～</p> <p>仮説 子どもに付けるべき力を具体的な評価規準として設定し、それを学習の目標として指導と学習を進めることを日常化する。その結果、子どもの学力が向上しているかどうか、客観的な評価をすることができる。</p> <p>研究内容・方法 校内学習研究会（国語科） 三部会別研修（学習構成部・学習環境部・教育課程編成部） グループ研修（低・中・高学年グループ） 先進地研修</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力」を付けるための教育課程編成の研究 ～「確かな学力」を付けるための新しい学校づくり～</p> <p>仮説 効率的かつ弾力的な教育課程を編成することで、児童に「確かな学力」を付けたり、特色ある教育活動を展開したりできるはずであり、結果的に時代の要請に応じた新しい学校づくりを実現させることができる。</p> <p>研究内容・方法 校内学習研究会（国語科を中心として） 三部会別研修（学習構成部・学習環境部・教育課程編成部） グループ研修（低・中・高学年グループ） 個別研修（個人で研修テーマを設定して取り組む） 先進地研修</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

研究推進委員会 — 全体研修	— 学習構成部 — 学習環境部 — 教育課程編成部
----------------	---------------------------------

平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

国語科の学力テスト(県国語教育研究会)の昨年度と今年度の結果を比較して。

【資料1】

- 7) ほとんどの学年で県平均正答率を上回っている。また、昨年度よりも平均正答率を上回っている。
このテストで測ることができる力については、おおむね平均的な力ないしそれ以上の力が付いていると考えられる。しかし、検査項目によっては、大きな落ち込みのある内容がどの学年にも見られる。
- 1) 得点の度数分布を見ると、昨年度は二極化の傾向が見られたが、今年度は、総体的に平均点近くにまとまってきている学年が増えた。
(偏差が小さくなっている。)
本校においては、二極分化から収束傾向へと向かいつつある。このことは、低学力層が向上した学年と逆に上位層の低下による学年の二つの側面がある、ということである。
ただし、この結果比較には次の2点のことを考慮しなければならない。
- () 標準化されていない学力テストであること。
() 昨年度は物語的文章の読解力を見る内容が中心であったが、今年度は説明的文章の読解力を見る内容であったこと。

目標と指導・学習と評価の一体化を目指した国語科年間指導計画・単元指導計画・単元評価計画の作成。

- 7) 国語科年間指導計画は、国語科学習指導要領が求めている国語科で付けるべき力を一年間のどの単元で継続的かつ螺旋的に指導するかを位置付けることができた。【資料2】
- 1) 単元別指導案では、児童の実態と単元の指導目標とを照らし合わせて、具体的な評価規準を設定することができた。【資料3】
- 7) 単元評価計画では、具体的な評価規準を実際の学習活動のどの場面でどんな方法によって評価するかを明らかにすることができた。
さらに、これを評価補助簿として使用することで、少人数指導における評価に客観性や信頼性を高めることができた。【資料4】

目標と指導・学習と評価の一体化を目指した国語科学習指導案の作成と学習研究会。

- 7) 前述の【資料2】【資料3】を統合し、かつ深い教材研究をもとに国語科学習指導案を作成することで、教科書どおりの学習から発展させた“葛小プラン”を再構築することができた。【資料5】
- 1) 校内学習研究会では、【資料2】～【資料5】を提示して事前研究会を実施した。本時においては【資料4】で参観者が学習の評価をした。このことで、指導者が設定した評価規準の妥当性や客観性を検証することができた。
- 7) 公開学習後の研究協議では、指導者及び参観者が共通の評価指標(ルーブリック)によって公開学習を評価することで指導の問題点や本校の課題を明らかにすることができた。【資料6】

国語科学習指導要領に定める目標の実現状況の把握。

- 7) 各単元ごとに、評価規準に照らして評価した実績を一覧表に整理し、AやCと判断した児童の学習状況、付けることができた力と付けられなかった力、指導上工夫したことなどについて分析を行った。
このことで、1学期間、1年間を見通した目標と指導・学習と評価の一体化を図ることができた。なぜなら、一つの単元で付けた力は何で、次の単元ではさらにどんな力を付けなければならないかを明確に意識化できるからである。【資料7】
- 1) 各単元での評価実績を総括して学期末の評価を行うが、従来のようにペーパーテストの結果に頼ることなく、客観性の高い評価をすることができた。
【資料8】

相対評価から目標に準拠した評価（絶対評価）への転換。

7) 長年にわたって相対評価に慣れてきたので、概念としては絶対評価を理解していても、実際の評価には相対評価観が働いてしまいがちであった。しかし、～の繰り返しにより、目標に準拠した評価の手順や手続きなどを実感することができた。

1) 評価観の転換は、一時間の学習をも変質させる必要があった。付ける力は何か、そのためにどんな学習材を用意するか、その学習材でどんな学習活動を展開するか、その中のどの場面でどんな評価を行うかというようなことを念頭において計画を立てることができた。

2. 今後の課題

国語科での研究成果をすべての教育課程に生かして特色ある学校づくりを進めること。

7) 目標と指導・学習と評価の一体化を目指した学習活動や教育課程の編成を進めることができたが、このことを他の教科領域にも適用して児童にあらゆる面からも確かな学力を付けられるような学校づくりが迫られている。

1) このことは、とりもなおさず、本校教員の資質の向上であり、指導力の向上にほかならない。

葛小中一貫教育特区構想との両立を図ること。

7) 本構想が完全実施になるまであと2年間であるが、過去2年間の本事業の成果や来年度の研究主題は、そのまま葛小中一貫教育特区構想にも生かすことができると考えている。なぜならば、これまでは本校6年間で児童にどんな力をどのように付けるのかについて研究してきたが、今後は9年間というスパンで考えることになるからである。

学力等把握のための学校としての取組

県の学力テストを実施（10月）

1・2年…国語・算数

3～6年…国語・算数・理科・社会

標準学力検査を実施（2月中旬）

1・2年…国語・算数

3～6年…国語・算数・理科・社会

単元別評価実績・学期末評価実績の分析

単元別評価実績【資料7】

学期末評価実績【資料8】

フロンティアスクールとしての成果の普及

本校研究紀要の頒布

御所市内の8小学校・4中学校に頒布

北海道・千葉県・広島県の各1小学校より頒布の要請あり

他校からの視察の受け入れ

広島県内の小学校より視察のため来校（2月）

神奈川県より視察の打診あり

本校のホームページ公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	√	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下	√	7～12学級	
	13～18学級		19～24学級	
	25学級以上			
【指導体制】	√ 少人数指導		T・Tによる指導	
	一部教科担任制		その他	
【研究教科】	√ 国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	√	有	無	

資料 1

国語科学力テスト結果分析（6年生）

	小問	正 答 率				検 査 細 目
		正確	本校	県	差異	
説 明 的 文 章 の 読 解 力	①	21	75.0	91.9	-16.9	指示する内容
	②	14	50.0	52.9	- 2.9	重要語句
	③	24	85.7	80.0	+ 5.7	構造的な理解
	④	26	92.9	91.9	+ 1.0	要約
	⑤	4	14.3	27.5	-13.2	段落相互の関係
	⑥	5	17.9	40.4	-22.5	筆者の書きぶり
	⑦	21	75.0	69.0	+ 6.0	要旨
言 語 事 項 の 力	⑧	19	67.9	63.3	+ 4.6	漢字の書き取り
	⑨	18	64.3	58.7	+ 5.6	送り仮名
	⑩	25	89.3	95.6	- 6.3	接頭語
	⑪	25	89.3	76.1	+13.2	かなづかい（5・6年共通問題）
	⑫	24	85.7	82.6	+ 3.1	ローマ字の読み（5・6年共通問題）
	⑬	21	75.0	76.9	- 1.9	主語の指摘（5・6年共通問題）
平均正答率			67.9	69.8	- 1.9	
前学年平均正答率			76.6	71.8	+ 4.8	現6年生が5年生の時の平均正答率
昨年度平均正答率			71.9	76.2	- 4.3	現中1年が6年生の時の平均正答率
作 文 力	段落構成	23		71.4	+10.7	段落の構成
	事・意	20		64.1	+ 7.3	事実と意見の書き分け
	分量	22		84.4	- 5.8	分量

《得点分布》

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県
100											33.3	2.8											3.7	11.4
90～											4.8	10.0											37.0	20.5
80～											19.0	16.6											26.0	21.4
70～											9.5	19.3											11.1	15.0
60～											14.3	18.2											7.4	10.6
50～											4.8	15.4											3.7	7.8
40～											9.5	10.3											3.7	5.5
30～											4.8	5.0											7.4	3.8
20～												1.7												2.3
10～												0.5												1.3
0～												0.2												0.4

本年度
前学年
※現6年生が5年生の時の

資料 1

国語科学力テスト結果分析（5年生）

	小問	正 答 率				検 査 細 目
		正確	本校	県	差異	
説 明 的 文 章 の 読 解 力	①	19	90.5	91.5	- 1.0	言い換え
	②	18	85.7	76.4	+ 9.3	構造的な理解
	③	16	76.2	65.8	+10.4	表現の巧みさ
	④	19	90.5	87.6	+ 2.9	重要語句
	⑤	15	71.4	56.2	+15.2	要旨
		19	90.5	66.5	+24.0	
	⑥	13	61.9	40.6	+21.3	作品の構成
⑦	17	81.0	47.6	+33.4	要約	
言 語 事 項 の 力	⑧	20	95.2	59.6	+35.6	漢字の書き取り
	⑨	15	71.4	70.8	+ 0.6	送り仮名
	⑩	15	71.4	53.9	+17.5	国語辞典の使い方
	⑪	11	52.4	67.9	-15.5	かなづかい（5・6年共通）
	⑫	14	66.7	71.6	- 4.9	ローマ字の読み（5・6年共通）
	⑬	12	57.1	45.4	+11.7	主語の指摘（5・6年共通）
平均正答率			75.9	64.4	+11.5	現5年生の平均正答率
前学年平均正答率			66.6	76.5	- 9.9	現5年生が4年生の時の平均正答率
昨年度平均正答率			76.6	71.8	+ 4.8	現6年生が5年生の時の平均正答率
作 文 力	段落構成	12	57.1	64.3	- 7.2	段落の構成
	事・意	15	71.4	60.3	+11.1	事実と意見の書き分け
	分量	18	85.7	78.4	+ 7.3	分量

《得点分布》

	本年度										本校		県		前学年										本校		県	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	1	2
100	■										33.3	2.8	■										9.5	11.0				
90～	■										4.8	10.0	■										14.3	24.3				
80～	■										19.0	16.6	■										14.3	22.5				
70～	■										9.5	19.3	■										9.5	14.8				
60～	■										14.3	18.2	■										23.7	10.0				
50～	■										4.8	15.4	■										4.8	6.6				
40～	■										9.5	10.3	■										4.8	4.5				
30～	■										4.8	5.0	■										14.3	3.1				
20～	■											1.7	■											2.3				
10～	■											0.5	■										4.8	0.6				
0～	■											0.2	■											0.3				

※前学年の現5年生が4年生の時

資料 1

国語科学力テスト結果分析（4年生）

	小問	正 答 率				検 査 細 目
		正答数	本校	県	差異	
説明的文章の読解力	①	24	96.0	90.2	+ 5.8	重要語句
	②	11	44.0	41.9	+ 2.1	指示語
	③	24	96.0	90.9	+ 5.1	事実の正確な読み取り
	④	14	56.0	44.7	+11.3	段落相互の関係
	⑤	10	40.0	58.9	-18.9	事実の正確な読み取り
	⑥	16	64.0	73.1	- 8.9	中心部分と付加的な部分の読み分け
	⑦	18 21	72.0 84.0	82.9 68.4	- 9.1 +15.6	要旨
言語事項の力	⑧	20	80.0	80.7	- 0.7	漢字の読み
	⑨	21	84.0	59.2	+24.8	漢字の書き取り
	⑩	12	48.0	60.8	-12.8	国語辞典の使い方
	⑪	19	76.0	93.8	-17.8	主語の指摘（3・4年共通問題）
	⑫	12	48.0	39.2	+ 8.8	修飾・被修飾の関係
	⑬	23	92.0	90.5	+ 1.5	文体の統一（3・4年共通問題）
平均正答率			71.1	69.7	+ 1.4	
前学年平均正答率			76.6	65.0	+11.6	現4年生が3年生の時の平均正答率
昨年度平均正答率			66.6	76.5	- 9.9	現5年生が4年生の時の平均正答率
作文力	段落構成	15	60.0	60.5	- 0.5	段落の構成
	記述	15	60.0	70.0	-10.0	題材に即した記述
	分量	25	100	78.9	+21.1	分量

《得点分布》

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県
100												3.4											3.8	2.3
90～	■	■	■	■							12.0	13.4	■	■	■	■							15.4	8.7
80～	■	■	■	■	■						20.0	18.3	■	■	■	■	■						16.1	13.9
70～	■	■	■	■	■	■					24.0	20.1	■	■	■	■	■	■					19.4	17.0
60～	■	■	■	■	■	■	■				24.0	16.9	■	■	■	■	■	■					15.4	18.5
50～	■	■	■	■	■	■	■	■			16.0	12.3	■	■	■	■	■	■					9.7	14.5
40～	■	■	■	■	■	■	■	■	■		4.0	7.7	■	■	■	■	■	■					3.8	10.5
30～												4.9	■	■	■	■	■	■					6.4	8.0
20～												1.9												4.2
10～												0.6												2.0
0～												0.5												0.4

本年度
※昨年度
現4年生が3年生の時

資料 1

国語科学力テスト結果分析（3年生）

	小問	正 答 率				検 査 細 目
		正確	本校	県	差異	
説 明 的 文 章 の 読 解 力	①	27	93.1	89.2	+ 3.9	中心となる語句
	②	22	75.9	66.6	+ 9.3	細部の読み取り
	③	24	82.8	62.8	+20.0	細部の読み取り
	④	27	93.1	83.6	+ 9.5	言い換え
	⑤	24	82.8	70.7	+12.1	細部の正確な読み取り
	⑥	17	58.6	44.6	+14.0	段落としてのまとめ
	⑦	20	69.0	56.7	+12.3	見出し
言 語 事 項 の 力	⑧	13	44.8	58.6	-13.8	漢字の読み
	⑨	29	100	88.8	+11.2	漢字の書き取り
	⑩	21	72.4	42.6	+29.8	原稿用紙の使い方
	⑪	20	69.0	68.6	+ 0.4	主語の指摘（3・4年共通問題）
	⑫	26	96.2	85.2	+11.0	文の構成
	⑬	27	89.7	86.2	+ 3.5	文体の統一（3・4年共通問題）
平均正答率			79.0	69.6	+ 9.4	
前学年平均正答率			78.8	76.3	+ 2.5	現3年生が2年生の時の平均正答率
昨年度平均正答率			76.6	65.0	+11.6	現4年生が3年生の時の平均正答率
作 文 力	題 材	25	86.2	89.9	- 3.7	題材の限定
	内 容	20	69.0	67.6	+ 1.4	題材に即した記述
	分 量	26	96.2	84.8	+11.4	分量

《得点分布》

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県
100											10.3	7.0											9.7	8.4
90～											31.0	13.9											25.8	19.1
80～											24.1	17.5											16.1	20.1
70～											10.3	17.4											16.1	21.9
60～											6.9	16.4											22.6	13.6
50～											6.9	11.9											6.5	9.3
40～											6.9	7.8												4.4
30～											3.4	4.3												1.8
20～												2.4												1.2
10～												1.2												0.1
0～												0.2											3.2	0.1

本年度
 昨年度

※ 昨年度
 時年生現
 生が三
 の二年

資料 1

国語科学力テスト結果分析（2年生）

	小問	正答率				検査細目
		正答数	本校	県	差異	
説明的文章の読解力	①	14	100	90.5	+ 9.5	事実の正確な読み取り
	②	13	92.9	64.4	+28.5	細部の読み取り
		8	57.1	84.1	-27.0	
	③	14	100	87.2	+12.8	主語の指摘
	④	8	57.1	57.6	- 0.5	事柄の順序
⑤	2	14.3	27.7	-13.4	内容の大体	
言語事項の力	⑥	11	78.6	81.0	- 2.4	漢字の読み
		12	85.7	90.8	- 5.1	
	⑦	12	85.7	91.0	- 5.3	漢字の書き取り
		14	100	92.6	+ 7.4	
	⑧	14	100	89.5	+10.5	片仮名の書き取り
	⑨	13	92.9	82.8	+10.1	片仮名の書き取り
	⑩	13	92.9	87.2	+ 5.7	主語と述語の関係
	⑪	13	92.9	94.0	- 1.1	語句の係り受け
⑫	8	57.1	63.9	- 6.8	「 」の使い方	
平均正答率			80.5	79.0	+ 1.5	
前学年平均正答率			88.6	89.4	- 2.8	現2年生が1年生の時の平均正答率
昨年度平均正答率			78.8	76.3	+ 2.5	現3年生が2年生の時の平均正答率
作文力	題材	14	90.3	87.8	+ 2.5	題材の限定
	記述	9	90.3	80.7	+ 9.6	題材に即した記述
	分量	10	87.1	86.6	+ 0.5	分量

《得点分布》

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	本校	県
100											7.1	7.0											9.7	8.4
90～											14.3	17.8											25.8	19.1
80～											35.7	25.9											16.1	20.1
70～											28.6	22.2											16.1	21.9
60～											7.1	13.5											22.6	13.6
50～												7.5											6.5	9.3
40～												3.3												4.4
30～											7.1	1.5												1.8
20～												0.9												1.2
10～												0.3												0.1
0～												0.1											3.2	0.1

※ 昨年度
時年生現
生が二
の一年

資料 1

国語科学力テスト結果分析（1年生）

	小問	正 答 率				検 査 細 目
		正答数	本校	県	差異	
説 明 的 文 章 の 読 解 力	①	24	100	94.8	+ 5.2	重要語句
	②	21	87.5	47.7	+39.8	事実の正確な読み取り
	③	22	91.7	75.5	+16.2	細部の読み取り
		22	91.7	70.2	+21.5	
	④	23	95.8	86.1	+ 9.7	内容の大体
		20	83.3	82.7	+ 0.6	
言 語 事 項 の 力	⑤	23	95.8	84.9	+ 9.9	漢字の読み
	⑥	24	100	95.7	+ 4.3	助詞の正しい使い方
		22	91.7	82.0	+ 9.7	
		24	100	92.8	+ 7.2	
	⑦	21	87.5	87.2	+ 0.3	平仮名の読み書き
		23	95.8	89.5	+ 6.3	
	⑧	23	95.8	79.0	+16.8	平仮名の読み書き
		24	100	93.8	+ 6.2	
	⑨	24	100	94.7	+ 5.3	平仮名の読み書き
		23	95.8	93.6	+ 2.2	
⑩	24	100	83.9	+16.1	句読点の有無	
	23	95.8	84.3	+11.5	平仮名の正確な表記	
平均正答率			94.9	84.4	+10.5	
作効	題材	24	100	78.4	+21.6	題材に即した記述

《得点分布》

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	本校	県
100																	66.7	19.8
90～																	12.5	28.2
80～																	12.5	23.7
70～																	8.3	13.9
60～																		7.7
50～																		3.3
40～																		1.6
30～																		0.9
20～																		0.6
10～																		0.2
0～																		0.1

本
年
度

資料 3

第3学年10月		単元名	メディアを生かす			全15時間
単元について	本単元では、詩のおもしろさや楽しさについて読み取り、それを伝える表現方法を考えて練習し、発表会を開くという一連の学習を中心に構成されている。これまで培ってきた「話す・聞く」「書く」「読む」力を互いに関連づけて活用し、創意ある活動を作り上げることをねらいとしている。この単元を学習することによって、各領域の力を総合的に発揮させていきたい。					
指導目標	本文を読み、活動の要点を理解して、学習計画を立てることができる。 題材が持つ魅力が伝わるように工夫して表現することができる。 発表会をして、互いの表現手段のよさを認め合うことができる。 仮名で書くと同じになる言葉を調べることができる。					
単元の評価規準	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く	ウ 書く	エ 読む	信語に関する知識・理解・技能	
	詩のおもしろさに気付き、その魅力を音読や群読で工夫して伝え合おうとしている。	伝えたいことを選び、筋道を立てて話している。 友達の表現方法の工夫から伝えたいことを聞き取っている。	詩の魅力を伝えるための工夫や根拠などを分かりやすく書いている。	叙述をもとに詩の魅力を読み取っている。 読み取ったことを工夫して音読したり群読したりしている。	適切な声の大きさや速さで、話したり音読したりしている。 同音異義語の使い方を理解し、意味の違いによる使い分けをしている。	
指導と評価の計画（全15時間）	次	時	学 習 活 動	評 価 規 準		評価方法
	一	1	詩の面白さや楽しさに気づく。	ア - 1 詩のおもしろさに気付き、その魅力を音読や群読で工夫して伝え合おうとしている。		話し合いの観察 発言内容の分析
		2	詩を工夫して音読をする。	エ - 1 叙述をもとに詩の魅力を読み取っている。		音読の観察
		3	ミニ発表会を開く。	エ - 2 読み取ったことを工夫して音読している。 イ - 1 友達の表現方法の工夫から伝えたいことを聞き取っている。		発表の観察 自己評価 相互評価 メモの分析
	二	4 10	群読による表現の工夫を考える。	ウ - 1 詩の魅力を伝えるための工夫や根拠などを分かりやすく書いている。 エ - 3 読み取ったことを工夫して群読している。 イ - 2 伝えたいことを選び、筋道を立てて話している。		ワークシートの記述 内容の分析 群読の観察 発表内容の分析
		11	群読コンクールを開く。	イ - 3 友達の表現方法の工夫から伝えたいことを聞き取っている。 エ - 1 発表会に適した声の大きさや速さで、話したり音読したりしている。		発表の観察 自己評価 相互評価 メモの分析
三	13 15	同音異義語について理解し、正しく使い分ける。	エ - 2 同音異義語の使い方を理解し、意味の違いによる使い分けをしている。		ワークシートの記述 内容の分析 短作文の分析	

単元の目標	①題材が持つ魅力が伝わるように工夫して表現しようとする。 ②発表会を開き、伝えたいことを分かりやすく話したり、友達の発表を聞いたりすることができる。 ③発表する相手を意識して、より分かりやすく伝えることができるように書くことができる。 ④詩のおもしろさや楽しさを読み取り、よりよく伝わるように音読することができる。 ⑤発表会に適した声の大きさや速さで、話したり音読したりすることができる。 ⑥語の性質や役割に関心を持ち、同音異義語を識別することができる。
-------	--

観点	時	評価場面・方法
----	---	---------

関心意欲態度	12～1	詩のおもしろさに気付き、その魅力を音読や群読で工夫して伝え合おうとしている。	○それぞれの言語活動中の場面を観察する。 ○自己評価 ○学習シート
--------	------	--	---

本単元の総括 <関心・意欲・態度>

話すこと・聞くこと	12～1	伝えたいことを選び、筋道を立てて話している。	○グループでの話し合い、発表などの観察 ○学習シート ○自己評価
-----------	------	------------------------	--

話すこと・聞くこと	12～1	友達の表現方法の工夫から伝えたいことを聞き取っている。	○グループでの話し合い、発表などの観察 ○学習シート ○自己評価
-----------	------	-----------------------------	--

本単元の総括 <話すこと・聞くこと>

書くこと	11～1	詩の魅力伝えるための工夫や根拠などを分かりやすく書いている。	○学習シート ○自己評価
------	------	--------------------------------	-----------------

本単元の総括 <書くこと>

読むこと	11～1	叙述をもとに詩の魅力を読み取っている。	○音読の観察 ○発表会の評価 ○自己評価・相互評価
------	------	---------------------	---------------------------------

読むこと	11～1	読み取ったことを工夫して音読したり群読したりしている。	○群読の観察 ○コンクールの評価 ○自己評価・相互評価
------	------	-----------------------------	-----------------------------------

本単元の総括 <読むこと>

言語事項	151413	同音異義語の使い方を理解し、意味の違いによる使い分けをしている。	○作成した文の分析 ○自己評価 ○小テスト
言語事項	1162	発表会に適した声の大きさや速さで、話したり音読したりしている。	○話し方の観察 ○音読の観察 ○自己評価

本単元の総括 <言語事項>

第二学年・第四学年の評価の観点の趣旨	▼国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。
書く	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。
話す・聞く	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。
関心意欲態度	▼国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	▼相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。
言語事項	▼音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。(書写は省略)	▼音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。(書写は省略)	▼音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。(書写は省略)
本単元で付けたい国語能力			
書く力	効果的な表現の力 文をつづる力 順序をたどって書く力 まとまった段落を書く力 大事なことを選んで書く力 段落に気を付けて書く力 中心点が明瞭な文章を書く力 アウトラインを決めて書く力 要旨の明確な文章を書く力 事実と意見を区別して書く力 根拠に基づいて書く力 略叙精叙の力 目的に応じた文章を書く力	聞く力	順序を立てて話す力 要点をおさえて話す力 中心点をはっきりさせて話す力 要旨のはっきりした話をする力 目的に応じて話す力 話のあらすじをつかむ力 順序を考慮して聞く力 要点を聞き取る力 話の内容をまとめられる力 話し手の意図をとらえる力 判断しながら聞く力 書くことを決める力 推考の力
読む力	音読の能力 朗読の能力 だいたいの読み取る能力 味わって読む能力 想像して読む能力 表現の優れたところに気付く能力 読んだことについて感想や意見をもつ能力 作者の見方・感じ方をとらえる能力 主題について考える能力 表現を鑑賞する能力 正しい発音で話す力 抑揚・強弱等に気を付けて話す力 文の成分を区別する力 文と文との接続関係理解の力 文の構造理解の力 指示語・接続語の力 語句の類別の性質理解の力 助詞・助動詞の役割理解の力 段落の相互関係理解の力 文章構造理解の力 正しい言葉遣いの力 敬語の力 敬体と常体との区別の力 共通語の力 文語調の理解の力	発音	正確な発音で話す力 抑揚・強弱等に気を付けて話す力
用法	文法	文法	文法
特記事項	☆	☆	☆

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----

第3学年 国語科学習指導案

2003年10月29日(水)
指導者 ○○○○○

- 1 単元名 学習材
メディアを生かす〈話す・聞く・書く・読む〉
なまけ忍者(しょうじ・たけし)・夕日がせなかをおしてくる(阪田寛夫)
わたしと小鳥とすずと(金子みすゞ) あめ(山田今次)・

2 単元の指導構想

《児童の実態》

<p>【話す・聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成を考えて伝えたいことを話す学習では、話したいことをカードに整理してから論理的に話すことを経験した。 ○ メモを取りながら互いに聞き合う学習では、要点を聞き逃さないように聞くことができる力が付いてきた。 <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様子を想像したり要点をとらえて読む学習では、登場人物の心情や場面の状況を考えながら音読できる児童が増えてきている。 	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み手に分かりやすくする工夫をして書く学習では、「初め・中・終わり」という章立てで筋道を立てて紹介文を書けるようになっている。 <p>【言語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 動詞・名詞・形容詞・形容動詞、基本文型、修飾語と被修飾語などについて学習している。 ○ 国語辞典の使い方を学習して、分からない言葉があれば、すぐに調べる習慣が付いてきている。
--	--

《本単元の特性》

- 本単元は、教科書では、メディア総合単元として位置付けられていて、これまでの個々の学習材を通じて培ってきた「話す・聞く」「書く」「読む」力を互いに関連づけて活用し、創意ある活動を作り上げていくことをねらいとしている。
- しかし、メディアというと、パソコンや映像機器などの手段を連想してしまうが、ここでは、自分が読み取ったり感じたりしたことを、受け手に分かりやすく発信するための手段としてメディアを考えた。
そこで、後で示すような指導計画を再構築した。

《単元の系統性》

- 本単元は、1年生での「ことばをつくる～かんじたことをことばにしよう～」、2年生での「ことばをつくる～しゃんからことばをつくりだそう～」の学習を受けている。
さらに、4年生では、「メディアを生かす～コマーシャルを作ろう～」、5年生では、「メディアをつくる～劇を作ろう～」、6年生では、「メディアをつくる～わたしたちの“今”を伝えよう～」の学習へと発展していく。
- この系統性を考えると、6年生ではプレゼンテーションができる力を付けているという児童の具体的な姿を想定しておく必要があると考える。

《研究主題との関連》

- 学習の目標をゴールと呼び、それを指導者と学習者とが共有して学習を始めることを日常化することで、児童にとって目標と学習と評価の一体化を図りたい。
- その際、一時間の学習を終えるときの到達状況(評価基準)をあらかじめ想定させ、そのために必要な思考やスキルを例示して意識化させたい。
- 教科ポर्टフォリオを導入し、毎時間の学習のゴールをつかみ、そのゴールを目指して学習し、自己評価力を高めたい。

《指導者の願い》

- 中学年としては、児童に、“自分の考えや気持ちを論理的に表現できる力”を付けることを目指している。
- 加齢するに従って、自己表現を避ける児童が多くなっていく傾向があること、とりわけ発表会などでは、表現手段にばかり依存してしまう現実があることを打破したい。
- 表現力を高めることで自信を持って学習に取り組み、「国語が好き。」という児童が増えてほしい。
また、相手に自分の考えや気持ちをきちんと伝えることで、人間関係を円滑に結べるようになってほしい。

《中学年のテーマとの関連》

指導にあたっての仮説 - 基本姿勢

《仮説1》

- 音読や群読によって詩の魅力表現することで、文章を読む際には、内容や作者の意図などを取り取る姿勢を身に付けていくことができる。

《仮説2》

- 一人一人の読み取りによる音読の工夫を大切に群読をすることで、表現することの楽しさや喜びを体験することができる。また、個を大切に学習が可能となる。

《仮説3》

- 一人読みではなかなか声が出せない児童が、群読という場を設定することで積極的に表現することができる。また、自分たちの声一つで多彩な表現ができることに気付かせることができる。

《仮説4》

- 国語の基礎学力の系統をさかのぼって検証し、児童の実態を明らかにして単元構成を再構築することで、教科書や指導書にとらわれない学習プランを組み立てることができる。また、このことが葛小プランの構築につながると考えられる。

効率的かつ効果的に指導するために

《少人数指導について》

〈メリット〉

- ① 個々を表現しやすい
少人数のため、人前での表現が苦手な児童でも、考えを发表或音読をしたりしやすい環境にできる。
- ② 基礎・基本的な能力の指導
国語科では、文字を正しく書くこと、言葉を適切に使うこと、語彙を習得すること、説得力のある文章を書いたり話したりすることなどに有効である。
- ③ 個別指導にあてる時間の確保
また、音読のときも、多人数に指導するより一人一人に時間をかけることができる。
- ④ 学習に適した環境づくり
グループでの話し合い活動で、騒々しくならないので、学習を円滑に進めることができる。

〈デメリット〉

- ① 個別指導の裏返し
多様な考え方や多面的な意見交流が必要な場合には、多人数による学習活動を設定する方が深まりが生まれやすい。活動自体が鍛錬されるという利点がある。それで、2クラスが交流して学習する場面や合同で学習する場面を設けるなどの工夫をしていきたい。
- ② 学習活動の画一化
2クラスに別れて同じ単元を同じ指導計画で進めようとする、指導者の個性や特性を発揮しにくくなる。それでは、ただ1クラスあたりの児童数が少ないというだけの指導になってしまう。そこで、指導する単元を分担したり、学習課題を分けたりして、弾力的な学習活動が展開できるようにしたい。

今後も系統的・発展的な指導を螺旋的に継続していく

〈3年下2単元〉

【話す・聞く・書く・読む】
「くらしをみつめて」

説明的文章を学習した後、地域の伝統行事について調べたり取材したりしたことを発表する学習。

葛小プラン

〈3年下5単元〉

【話す・聞く・書く・読む】
「思いをくらべ合おう」

文学的文章を学習した後、読み取ったことや感想などを友達と交流し、さらに、報告会を開く学習。

《中学年で目指す児童の姿》

- 話したいことや書きたいことを論理的に整理してから表現できる。
- 友達の考えを自分の考えと比べて聞くことで自分の考えを深めることができる。
- 主語・述語、文末表現などを明確にした表現が日常会話でできる。

資料 5

3 単元の目標及び評価規準

	単 元 の 目 標	単 元 の 評 価 規 準
態度・語への関心・意欲・関	○ 題材が持つ魅力が伝わるように工夫して表現しようとする。	① 詩のおもしろさに気付き、その魅力を音読や群読で工夫して伝え合おうとしている。
話す・聞く	○ 伝えたいことを分かりやすく話したり、友達の発表を聞いたたりすることができる。	② 伝えたいことを選び、筋道を立てて話している。 ③ 友達の表現方法の工夫から伝えたいことを聞き取っている。
書く	○ 相手を意識して、より分かりやすく伝えることができるように書くことができる。	④ 詩の魅力を伝えるための工夫や根拠などを分かりやすく書いている。
読む	○ 詩のおもしろさや楽しさを読み取り、よりよく伝わるように音読することができる。	⑤ 叙述をもとに詩の魅力を読み取っている。 ⑥ 読み取ったことを工夫して音読したり群読したりしている。
言語に関する知識・理解・技能	○ 適切な声の大きさや速さで、話したり音読したりすることができる。 ○ 語の性質や役割に関心を持ち、同音異義語を識別することができる。	⑦ 適切な声の大きさや速さで、話したり音読したりしている。 ⑧ 同音異義語の使い方を理解し、意味の違いによる使い分けをしている。

4 国語能力の系統と本単元で付けたい国語能力

※詳細は別紙『評価計画表』参照

【話す力】

- 要点をおさえて話す能力

【聞く力】

- 要点を聞き取る能力

【書く力】

- 大事なことを選んで書く能力

【読む力】

- 音読の能力
- 想像して読む能力
- 表現のすぐれたところに気付く能力
- 読んだことについて感想や意見をもつ能力

【言語】

- 正しい発音で話す能力
- 正しい言葉遣いの能力
- 語句の類別の性質理解の能力

※国語能力の発展的系統一覧より抜粋

資料 5

5 指導計画及び評価計画

※詳細は別紙『評価計画表』参照

教科書指導書に示されている指導計画 〈全15時間〉		再構築した指導計画 〈全15時間〉	
詩のみりよくをつたえよう	詩の面白さや楽しさに気づく	1	1 詩の面白さや楽しさに気づく
	詩の魅力を伝える方法を知る	2	2 詩を工夫して音読をする
	自分が選んだ詩の魅力を考え、その表現方法を工夫する	3	3 ミニ発表会を開く
	自分が考えた表現方法の練習をしたり、作品を作ったりする	4 9	4 群読による表現の工夫を考える【本時】
			56 群読のシナリオを作って練習をする
	発表会の計画を立てる	10	7 グループで選んだ詩の魅力を考え、群読シナリオを作って練習をする
	発表会を開く	11	10 群読コンクールを開く
学習を振り返って感想を書く	12	12 学習を振り返って感想を書く	
言葉のいずみ②	同音異義語について理解する	13	13 同音異義語について理解する
	同音異義語を集めて分類する	14	14 同音異義語を集めて分類する
	同音異義語の使い方をまとめる	15	15 同音異義語の使い方をまとめる

《実態に即した単元構成》

- 高学年になるにつれて、音読の声小さすぎる子、抑揚のない単調な音読をする子などが増えていく傾向がある。
また、調べたことをまとめて発表するような場面では、模造紙や画用紙に書いたことをただ読み上げるだけの子、準備物を作ることにだけに労力を費やしてしまう子などが見られる。
- 教科書では、詩の魅力を伝える手段として、音読、群読、歌やお話、絵本やポスター作りを設定しているが、ここでは、音読と群読に主眼を置くことにした。
その理由は、大きく2点挙げられる。
一つ目の理由は、中学年児童の発達段階として、表現することに意欲的であるということや、友達の良いところを素直に認め自分のものにもできるという特徴を生かしたいからである。
二つ目の理由は、一番簡単に使えて一番大切なメディアは、自分自身であり、小道具や機器を利用することは二次的なことであるということはこの時期に指導しておきたいからである。
- 3学期には、感動したことや観察したことなどをもとに自分で詩を作る学習をする計画である。
そこでこそ、作った詩と合わせて音読以外の視覚的に表現する手法を工夫させたいと考えている。

6 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- 詩の魅力を表現するために、音読の工夫を群読に生かすことができる。
- 自分の考えた工夫の根拠を示して説明することができる。

(2) 本時の仮説

- 一人一人の工夫を出し合ってそれを練り上げていくことで、個を大切にしながら群読を創り上げることができる。《仮説2》
- 群読のモデル(CD)を示すことで、群読による表現の良さに気づき、積極的に学習に取り組むことができる。《仮説3》

資料 5

(3) 展 開

学習の目標(ゴール)	学習・指導 (支援含む)	評 価
<p>1 本時のゴールを共有しようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>本時のゴール 詩「なまけ忍者」のおもしろさや楽しさを群読で表現するための工夫をする。</p> </div>	<p>指 前時のミニ発表会で、詩「なまけ忍者」のおもしろさや楽しさを音読で伝えることができたか振り返らせる。</p> <p>学 自分が工夫した音読の仕方とその根拠を確かめる。</p> <p>指 群読という表現方法について、モデルを示して知らせる。(あめ/山田今次)</p> <p>学 モデルの群読を聞いて、気付いたことを発表する。</p>	<p>【関・意・態】</p> <p>○ モデルの群読の良さや工夫を、自分の音読と比べて見付けようとしている。 態度 (下線部A評価)</p>
<p>2 群読の基本的な読み方を知り、その練習をすることができる。</p>	<p>指 4つの基本的な読み方を知らせて、例を示す。 (漸増読み・漸減読み 追いかけて読み・乱れ読み)</p> <p>学 グループで練習する。</p>	<p>【読 む】</p> <p>○ 読み方の良さに気付き、それを表現して読んでいる。 読み</p>
<p>3 群読の基本的な読み方の効果を考え、発表することができる。</p>	<p>指 練習した読み方でどんな効果を実現することができるか気付いたことを発表させる。 (どんな感じがするか? どんなときに使えるか?)</p> <p>学 気付いたことを整理してから発表する。</p>	<p>【話す・聞く】</p> <p>○ 基本的な読み方の効果を、理由や感想とあわせて話している。 発表</p> <p>○ 友だちの発表を自分の考えに生かせるように聞いている。 態度</p>
<p>4 「なまけ忍者」を群読するときの工夫を考え、群読シナリオを作ることができる。</p>	<p>指 どの部分をどんな読み方で読みたいかを学習シートに書かせる。</p> <p>学 前時の音読で工夫したことを生かして群読の工夫を考える。</p> <p>指 基本的な読み方をすべて使う必要はないこと、また、すべての部分に使う必要もないことを知らせる。</p>	<p>【書 く】</p> <p>○ 工夫したい部分をどんな読み方で表現するかを、根拠や期待できる効果を示して書いている。 シート</p>
<p>5 考えたシナリオを交流することができる。</p>	<p>指 考えたシナリオを、工夫した根拠と合わせて説明させる。</p> <p>学 友だちの工夫や説明の良さを聞き取る。</p>	<p>【話す・聞く】</p> <p>○ 工夫したい部分をどんな読み方で表現するかを、根拠や期待できる効果を示して話している。 発表</p> <p>○ 友だちの説明を自分の考えに生かせるように聞いている。 態度</p>

資料 5

(4) 本時の検証（評価項目） ※評価指標（ルーブリック）は別紙

《目標に関すること》

- 本時の大ゴールの設定は妥当で、児童が到達できるものであったか？
- 小ゴールを積み重ねていくことで、大ゴールへと到達できるものであったか？

《学習・指導に関すること》

- 学習材の選択は児童の学習意欲や学習効果を高めるのに適していたか？
- 指導形態や指導内容は児童の学習活動にとって効果的であったか？
- 個別指導は適切な時に、適切な児童に対して行われ、効果が上がっていたか？
- 学習シートは、児童の学習活動を効果的に進められるように工夫されていたか？

《評価に関すること》

- 評価規準の設定は、児童の実態と目標に基づいて設定されていたか？
- 自己評価や振り返りは、目標や学習したこと指導したことを反映していたか？

資料 6

第 1 回 校内学習研究会評価指標 (rubric)

プロジェクト・Kのテーマ『子どもたちに“確かな学力”を付けるための学習を展開できる力量を付けよう!』を実現するために、評価指標 (rubric) を設定します。

【 1 】 公開学習評価指標 (本時の検証)

評 価 項 目		A	B	C
目 標	本時の目標 (大ゴール) 設定は児童の実態に即していたか?	ねらいと実態が合致していた	児童の実態に即して妥当	高すぎる設定 低すぎる設定
	小ゴールを積み上げることで、本時の大ゴールに到達できたのか?	効率的な積み上げで到達	大ゴールに到達できた	ゴールの方向性が違った
	使用した学習シートで、目標と学習・指導と評価の一体化は図れたか?	一体化を目指すのに効果的	一体化を意識できる	一体化とはほど遠い
学 習 ・ 指 導	ビデオを提示することで学習効果は上がったか?	これ以上効果的手段はない	それなりの学習効果あり	他に手段があったはず
	合同から少人数へ指導形態を変えたことで学習効果は上がったか?	期待以上の効果が上がった	ねらい通りの効果はあった	逆に学習効果は下がった
	グループ活動により学習効果は上がったか?	期待以上の効果が上がった	ねらい通りの効果はあった	逆に学習効果は下がった
	いわゆる“C評価”の児童への個別指導は適切であったか?	適切な指導でB評価に	個別指導はなされていた	個別指導はなかった
評 価	評価カードを使うことでめあてを明確にした学習活動が展開できたか?	具体的な活動が展開された	めあてをはっきり持てた	カードの意味がなかった
	設定した評価規準が目標を反映していたか?	すべて目標にぴったり準拠	いくつかは準拠していた	目標に準拠していない
	子どもたちの自己評価の精度はどうだったか?	的確に自己評価できている	できる子とできない子と	課題・過少評価ばかり
指 導 技 術	発問や指示は明確かつ適切であったか?	端的で効果的であった	その内容は理解できた	よく理解できなかった
	板書や資料の提示は的確であったか?	端的で効果的であった	その内容は理解できた	よく理解できなかった
	本時の展開の組み立ては目標達成のために有効で効率的であったか?	合理的で有効な組み立て	目標に向かった組み立て	方向性が違う組み立て

【 2 】 研究協議評価指標

評 価 項 目		A	B	C
発 言	研究協議では、積極的に発言できましたか?	改善案や提言を述べた	意見や感想を述べた	発言しなかった
学 び	研究協議では、自らの成長になる学びをしましたか?	指導力を上げるものを得た	知らなかったことを知った	何も得るものがなかった

資料 7

教科名：国語科

単元名：メディアを生かして

学年：第 3 学年

児童数：29人

本単元に該当する学習指導要領の内容	本単元の評価規準	実現の状況	本単元における各観点ごとの考察・備考	本単元全体の考察・備考
<p>「話すこと・聞くこと」 ア 伝えたいことを選び自分の考えが分かるように筋道を立てて相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。 ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うこと。</p>	<p>(国語への関心・意欲・態度) 詩のおもしろさに気付き、その魅力を音読や群読で工夫して伝え合おうとしている。</p>	<p>A 41 % (12人) B 59 % (17人) C % (0人)</p>	<p>Aと判断した児童は、詩のおもしろさを自分なりの根拠をもって示したり、音読や群読の表現にそれを生かさずとしていた。</p>	<p>本単元は、教科書では、詩の魅力を伝える手段として、音読、群読、歌やお話、絵本やポスター作りを設定しているが、ここでは、音読と群読に主眼を置くことにした。 その理由は、大きく2点挙げられる。 一つ目の理由は、中学年児童の発達段階として、表現することに意欲的であるということや、友達の良いところを素直に認め、自分のものにもできるという特徴を生かしたいからである。 二つ目の理由は、一番簡単に使えて一番大切なメディアは、自分自身であり、小道具や機器を利用することは二次的なことであるということからである。 3学期には、感動したことや観察したことなどをもとに自分で詩を作る学習をする計画である。 そこでこそ、作った詩と合わせて音読以外の視覚的に表現する手法を工夫させたいと考えている。</p>
<p>「書くこと」 ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。 イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。 ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。</p>	<p>(話す・聞く) 伝えたいことを選び、筋道を立てて話している。 友達の表現方法の工夫から伝えたいことを聞き取っている。</p>	<p>A 28 % (8人) B 62 % (18人) C 10 % (3人)</p>	<p>Aと判断した児童は、自分の読みや工夫したい所などを相手に伝えるために、メモに整理してから話したり、相手の話や音読を聞いて大事だと思うことやアドバイスなどをメモして相手に伝えていた。 Cと判断した児童は、自分が気に入った部分を示すことはできたが、その根拠や工夫については示せなかった。</p>	<p>Aと判断した児童は、言葉の繰り返しや倒置表現、比喩などに着目し、詩のリズムや豊かな感性を自分のものにできるような内容を書いていた。 Cと判断した児童は、詩の表現方法に着目できず、従って言葉通りに詩を解釈した内容を書いていた。</p>
<p>「読むこと」 ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。 ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。</p>	<p>(書く) 詩の魅力を伝えるための工夫や根拠などを分かりやすく書いている。</p>	<p>A 28 % (8人) B 59 % (17人) C 13 % (4人)</p>	<p>Aと判断した児童は、原文に繰り返しを付け加えたり、効果音的な演出を加えたりしながら、音読や群読をすることができた。</p>	<p>Aと判断した児童は、同音異義語について国語辞典などを使ってどんどん語彙を増やしていた。 Cと判断した児童は、漢字一字の読み方や意味が分からなかったり、熟語としての読み方や意味が分からなかったりした。</p>
<p>エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。 「言語事項」 エ・ア 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 オ・ウ 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。 カ 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話し、また、文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p>	<p>(読む) 叙述をもとに詩の魅力を読み取っている。 読み取ったことを工夫して音読したり群読したりしている。</p>	<p>A 35 % (10人) B 65 % (19人) C 0 % (0人)</p>	<p>Aと判断した児童は、原文に繰り返しを付け加えたり、効果音的な演出を加えたりしながら、音読や群読をすることができた。</p>	<p>Aと判断した児童は、原文に繰り返しを付け加えたり、効果音的な演出を加えたりしながら、音読や群読をすることができた。</p>
<p>「言語事項」 エ・ア 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 オ・ウ 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。 カ 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話し、また、文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。</p>	<p>(言語についての知識・理解・技能) 適切な声の大きさや速さで、話したり音読したりしている。 同音異義語の使い方を理解し、意味の違いによる使い分けをしている。</p>	<p>A 35 % (10人) B 52 % (15人) C 13 % (4人)</p>	<p>Aと判断した児童は、同音異義語について国語辞典などを使ってどんどん語彙を増やしていた。 Cと判断した児童は、漢字一字の読み方や意味が分からなかったり、熟語としての読み方や意味が分からなかったりした。</p>	<p>Aと判断した児童は、同音異義語について国語辞典などを使ってどんどん語彙を増やしていた。 Cと判断した児童は、漢字一字の読み方や意味が分からなかったり、熟語としての読み方や意味が分からなかったりした。</p>

資料 8

第 2 学期

教科名：国語科

学年：第 3 学年

児童数：29 人

学習指導要領の 内容のまとめ	内容のまとめごとの評価規準	実現の状況	本内容のまとめにおける 各観点ごとの考察・備考	本内容のまとめ全体の 考察・備考	
「話すこと・聞くこと」 ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。	(国語への関心・意欲・態度) 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。	A 7 % (2人)	・身近な出来事について、筋道を立てて話すことができた。 ・話の中心に気を付けて聞くことができた。	・発表する際、用意したメモを頼りにはっきりと発表する姿が見受けられるようになった。 ・自分だったら、このように話すだろうと考えながら聞くことに課題が残った。 ・お互いの考えの相違点や共通点を考えながらそれぞれを比べ、次の考えを生み出すまでには至っていない。	
		B 93 % (27人)			
		C 0 % (0人)			
ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。	(話す・聞く) 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている。 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている。	A 21 % (6人)	・家庭や学校、地域社会における日常生活の中で、経験したことや調べたことを話題に報告することができた。 ・経験したことなどを時間の順序に沿って話すことができた。 ・聞くための準備をしてから聞くことができた。		
		B 72 % (21人)			
		C 7 % (2人)			
(言語についての知識・理解・技能) その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。	A 34 % (10人)	B 49 % (14人)	C 17 % (5人)	・音量や速さ、間などを工夫して話すことができた。 ・話の筋を立てるために、指示語や接続語を使うことができた。 ・丁寧な言葉遣いで尋ねることができた。	

資料 8

第 2 学期

教科名：国語科

学年：第 3 学年

児童数： 29 人

学習指導要領の 内容のまとめ	内容のまとめごとの評価規準	実現の状況	本内容のまとめにおける 各観点ごとの考察・備考	本内容のまとめ全体の 考察・備考
<p>「書くこと」</p> <p>ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。</p> <p>イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。</p> <p>ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。</p> <p>エ 書こうとする事柄の中心を明確にしなが ら、段落と段落との 続き方に注意して書 くこと。</p> <p>オ 文章のよいところ を見付けたり、間違 いなどを正したりす ること。</p>	<p>(国語への関心・意欲・態度)</p> <p>相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている。</p> <p>(書 く)</p> <p>相手や目的に応じて、適切に書いている。 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている。 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら、段落と段落との続き方に注意して書いている。 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。</p>	<p>A 24 % (7人)</p> <p>B 76 % (22人)</p> <p>C 0 % (0人)</p> <p>A 45 % (13人)</p> <p>B 48 % (14人)</p> <p>C 7 % (2人)</p>	<p>・自分の経験や身の回りの出来事について関心をもち、不思議に思うことや疑問について調べ、分かったことを相手によく分かるような文章で伝えることができた。</p> <p>・だれに、どんなことを新聞で伝えたいのかをはっきりさせて書くことができた。</p> <p>・取材した事柄の中から、必要な事柄を選んで書くことができた。</p> <p>・伝えたいことをカードやメモに整理して書くことができた。</p> <p>・書いた文章を読み返したり読み合ったりして、よく分かるように直したり、間違いを正したりすることができた。</p>	<p>・話題を示す部分、例を挙げて説明する部分、話題についてまとめている部分といった具合に、分けて書かれている文章を例に取り上げ、文章構成や論の進め方について指導したことが、調べたことを文章にまとめるときに有効であった。</p> <p>・書くことがないという児童の場合、身の回りの人とのかかわりや、テレビや新聞で見たことの中から、自分の生活に関係ある話題を見付ける指導を続けたところ、次第に書けるようになってきた。</p>
<p>漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。 送り仮名に注意して書いている。 句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。 文章全体における段落の役割を理解している。 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。 文章の敬体と常体に注意して書いている。 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。 文字の大きさや配列に注意して書いている。 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。</p>	<p>(言語についての知識・理解・技能)</p> <p>第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。</p>	<p>A 34 % (10人)</p> <p>B 49 % (19人)</p> <p>C 17 % (0人)</p>	<p>・文章の基本的な組立て方を用いて、中心点をはっきりした構成にすることができた。</p> <p>・修飾と被修飾の関係を理解して書くことができた。</p>	

資料 8

第 2 学期

教科名：国語科

学年：第 3 学年

児童数： 29 人

学習指導要領の 内容のまとめ	内容のまとめごとの評価規準	実現の状況	本内容のまとめにおける 各観点ごとの考察・備考	本内容のまとめ全体の 考察・備考
<p>「読むこと」</p> <p>ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。</p> <p>イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。</p> <p>ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。</p> <p>エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。</p> <p>カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。</p>	<p>(国語への関心・意欲・態度)</p> <p>幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている。</p>	<p>A 24 % (7人)</p> <p>B 76 % (22人)</p> <p>C 0 % (0人)</p>	<p>・教科書教材に関連した他のいろいろな本に興味をもち、読むことができた。</p> <p>・場面の情景を想像しながら読み進め、友達との読みの交流を通して、感じ方や考え方の違いに気付いて、自分の読みを振り返ることができた。</p>	<p>・読み取りの浅い児童に対しては、他の児童の読み取りを参考にさせ、文章を再度読み直して自分の読みを深めさせるようにした。</p> <p>・場面の中で使われている言葉の語感を感じ取らせ、類義語などと比較しながら幅のある読み取りをするように促すことが大切である。</p>
	<p>(読む)</p> <p>いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる。</p> <p>自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる。</p> <p>場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる。</p> <p>文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている。</p> <p>自分の目的や必要に応じて、大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意しながら読んでいる。</p> <p>相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。</p>	<p>A 45 % (13人)</p> <p>B 45 % (13人)</p> <p>C 10 % (3人)</p>	<p>・書かれている内容を叙述に即して正確に読み取ることができた。</p> <p>・詩を読むとき、場面の情景について、豊かに描いている表現に着目して読むことができた。</p> <p>・物事の様子を身近な例や体験を想起して想像を広げながら読むことができた。</p>	
	<p>(言語についての知識・理解・技能)</p> <p>当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。</p> <p>語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。</p> <p>国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。</p> <p>文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。</p>	<p>A 34 % (10人)</p> <p>B 49 % (14人)</p> <p>C 17 % (5人)</p>	<p>・意味がよく分からない語句を、必要に応じて国語辞典を使って調べることができた。</p> <p>・主語と述語、修飾語と被修飾語、指示語、接続語などに着目して読むことができた。</p>	